

今からでもできる災害への備え！

☎危機管理・防災課(東庁舎) ☎71・2311 ☎72・2000

近年、雨の降り方が変化しているといわれ、湖南省市でも昨年8月および今年7月に土砂災害警戒情報の発表などに伴い、避難情報を発令しました。



▲昨年8月13日の大雨で崩落した里道の様子



▲今年7月19日の大雨で西庁舎周辺が冠水した様子

また、南海トラフを震源とする巨大地震の発生確率は30年以内に70~80%と依然高い確率を維持しています。災害が発生した際に身を守る行動を取れるよう、事前に準備しておくことが非常に重要です。

情報収集をするために

災害時には、最新の情報に基づいて行動しなければなりません。特に風水害に対しては、避難指示や避難場所開設などの情報をいち早く入手できるように準備しておきましょう。1つの手段に頼ることなく、さまざまなものを組み合わせて自分の知りたい情報を集めることが大切です。

1. スマートフォンや携帯電話をお持ちの人

最新の情報が常に届くようにしておきましょう。

●Yahoo! 防災速報アプリ

プッシュ通知で急激な気象の変化を知ることができます。

●湖南省メール配信サービス

Eメールで避難情報の発令、開設された避難所をいち早く知ることができます。

●湖南省公式アプリこなんいろ



こなんいろ、LINEでも防災情報を配信しています。また、防災、災害メニューもご活用ください。

●湖南省LINE公式アカウント



こなんいろ、LINEでも防災情報を配信しています。また、防災、災害メニューもご活用ください。

2. テレビ・ラジオがある人

テレビやラジオで最新の気象状況や避難情報をチェックしましょう！

テレビのリモコンの「dボタン」を押すと、防災に関する情報や、開設された避難所を確認できます。



3. 防災行政無線からの放送に気づいたら

防災行政無線の屋外スピーカーからの放送があったら、危険が迫っている可能性があります。遮音性の高い住宅や台風時などは音声が届きにくいので、放送内容を知りたい人は湖南省市LINE公式アカウントの災害メニューから電話をかけることで、聞くことができます。



在宅避難とは

市が開設する避難場所に身を寄せることだけが避難ではありません。自宅や親戚・知人宅で安全を確保する「在宅避難」も有効です。市が発行したハザードマップなどで平常時から自宅の危険度を把握しておき、在宅避難が可能であるか検討しましょう。自宅が安全であれば、在宅避難の方が普段の生活に近い環境で過ごせます。

ただし危険な場所にお住まいの人は、避難情報が発令された場合、迷うことなく避難場所へ避難してください。

1. 家庭内備蓄は最低でも3日分(理想は7日分)

大規模災害が起こると物流が完全にストップすることがあるため、最低でも3日分の備蓄が必要です。

備蓄例

- ・飲料水(1人1日3リットル)
- ・食料品(クラッカーや缶詰など調理せずに食べられるもの)
- ・トイレパック(便座に被せて使用し、凝固剤で固めたうえで可燃物として廃棄できるもの。1人1日5個が目安)
- ・家族に合わせた準備(常備薬、眼鏡、着替え、おむつ、補助器具、ミルク、哺乳瓶、離乳食、スプーン、食品用ラップフィルム、おしりふき、ペットフードなど)

2. ローリングストックがおすすめです

食料や日用品を少し多めに買い置き、普段の生活の中で使いながら買い足し、常に一定の備蓄量を保つ「ローリングストック」という方法もあります。

避難所での食事は炭水化物中心になりがちです。ローリングストックをすることで災害時でも普段と変わらない食事ができます。また、割高な非常食を買う必要がなくなるので、家計にもやさしい方法です。

備えるべき品目は、生活スタイルによってさまざまです。災害時でも平常時と変わらない生活ができるよう、自分たちに必要なものは何なのか考えて、備えておきましょう。

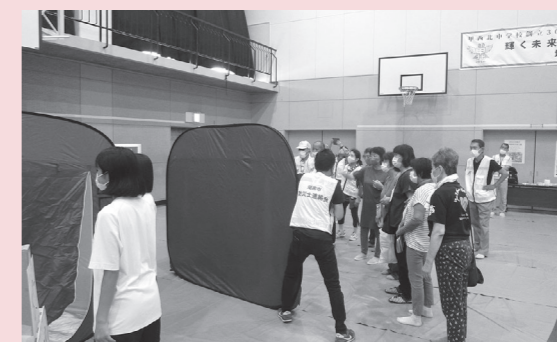
湖南省市防災士連絡会 ～助けられる人から、助ける人へ～ 甲西北中防災フェスタに参加しました



湖南省市防災士連絡会ホームページに「防災士インタビュー」として市内で活躍中の防災士の紹介をしています。「防災士に興味がある」「地域の防災力向上に役立ちたい」とお考えの人は、**固ま**でご連絡ください。



湖南省市防災士連絡会ホームページ



湖南省市防災士連絡会は、地域防災力の強化や市民の防災意識の向上を目的に市内の防災士を中心に設立された団体です。会では8月27日に甲西北中学校ボランティア部が主催した防災フェスタに協賛し、中学校が位置する正福寺地区の過去の災害についてパネル展示し、市が保有するテント型の間仕切りや段ボールベッドの組立・展示を行いました。湖南省市防災士連絡会は、「助けられる人から、助ける人へ」を合言葉に、地域および学校との連携・協働を深め今後も積極的な活動を展開していきます。